「大学院に行きたいんです」

そう言う交換留学生の人が多い気がする。日本の学部生で、院に進学するのは12％程度である。理系全体では40％程度が院に進学するが、文系では10％に満たない。交換留学生のほとんどは独文などの文系であることを踏まえると、10人いたら1人、院に進学する人がいるかどうかという確率のはずである。しかしチュービンゲンの日本人交換留学生の場合、10人いたら優に2、３人は院に進学したい人がいる気がする。

立場を明確にしておきたい。僕は、「大学院に行きたい」と言う日本人学部生には、「やめとけ」と言うようにしている。これはホリエモンが、「起業したい」という人には「やめとけ」と言うようにしているのと基本的に同じ理由である。

失敗するからである。

起業の場合、94％の会社は10年持たず倒産する。なので、「起業したい」という人がいたら、「やめとけ」と言うのが、ほぼ間違いのない回答なわけである。

一方、大学院進学の場合はどうか。理系なら、特に問題はない。学費を2年分多く払わないと行けないが、十分な理系の専門スキルを身につけるには、大学院で実際に研究活動に取り組むのが一番だ。生物学などは他の分野に比べ産業が小さいので就職活動も厳しいが、それでも「意外といい就職先見つかるなー」というのが、学部の同期を見ていての実感である。修士でしかとってくれない会社も多いし、修士持ちの方が給料いいので、理系にとって、大学院進学は悪くない選択と言える。

ただ、文系の場合はどうか。僕の乏しい知識では、文系で大学院に行くべき人は、将来（１）大学の先生になりたい、（２）国際機関で働きたい、の2通りしかないのではないか。

1. 大学の先生ルートの場合

博士号が必要になるので、大学院に行かざるをえない。最初の問題は、5年以上に及ぶ学費、生活費の工面である。もし家が裕福なら、別にいいだろう。優秀で、かつ運がよければ、学振などの給付型奨学金も修士の後に取ることができるかもしれない。いずれでもない場合、バイトをして、社会に出ている同期と飲みに行くときに惨めな思いをしないようにしなければならない。同期が出世、結婚していく中で、研究への情熱だけを胸に、自分を肯定し続けなければならない。将来、大学に残れるかどうかは、学振を取る以上の実力と運が必要だ。少子化で多くの大学が淘汰されていく中、卒業したタイミングで丁度あなたの専門分野のポジションが空いている幸運を期待しないといけない。実務経験なしで20代後半になると、一般企業への就職はかなり厳しくなるからである。博士号取得者のうち、40％以上が正規就職できない現状は無視できないだろう。

1. 国際機関で働くルートの場合

例えばWHO（Waldhäuser Ostのことではなく、World Health Organizationの方ね）など、応募の時点で修士号は持っているのが望ましい。なので、少なくとも人生のどこかの時点で、大学院に行かないといけない。注意しないといけないのは、英語はもちろん、実務経験も求められるということである。なので、就職もしないといけない。できれば、法律、医療、会計など、専門職であることが望ましいし、学位も日本ではなくアメリカなど海外の院で取った方がよい。

一度きりしかない人生だし、選択は自由である。「周りが就職するから」という理由で、就職するのがいいとは言わない。しかし、学部時代ろくに勉強もしないで何のスキルも持たない20代前半の若者が、「将来性」という存在するかもわからない概念によって、終身雇用を基本とする、世界に名だたる日本企業に卒業以前に就職を決められるチャンス、シューカツ。これって実はものすごく恵まれていることなのだ。欧米だとありえないぞ。卒業して、3か月以上の無給・薄給のインターンを繰り返して実務経験をため、不安定な身分のまま正規就職できる会社を探し続けるのだって珍しくないのだから。

シューカツが気持ち悪いのは理解できる。皆一様なリクルートスーツ、張り付けた笑顔、無駄にムズイSPIと、基準がわからない面接、止まない「お祈り」メールに自尊心が摩耗していく日々。辛いよねきっと。

だがそれでも、シューカツはペイするんじゃないか。なんだかんだ言って、大卒の就職率は80％を優に超える。チュービンゲンにいらっしゃる日本人大学生のみんなは、日本の名の知れた大学のご出身であるから、シューカツに取り組む覚悟さえあればどこかは決まるはずである。それで、少なくとも安定した収入と社会的地位は手に入る。仕事が辛かったら辞めてもいいと思うが、仮に辞めても実務経験という、転職に絶対必要な経歴は手に入る。大学院に行って途中で辞めたら悲惨だぞー。年齢高いから新卒では無理、実務経験ないから中途も無理。つまり詰んでしまう。実務経験がなく、社会で必要とされるスキルもなく、年だけとっていれば、その人の市場価値と生涯賃金の期待値はどんどん下がる一方だ。

就職し、安定した収入を得、結婚し家族を持ち、子供に未来をつなげる。そういう「普通」の幸せが欲しければ、あえてマジョリティ、「普通」に属するのも勇気である。もちろん、普通に就職したからといって普通の幸せが手に入るわけではないが、少なくとも近づくことはできる。それが少しでも魅力的に映るなら、文系大学院進学は、今あなたが何をどう考えていても、結果的に失敗になる。なぜなら、１つ。普通の道からどんどん離れていくから。２つ。自分の市場価値と生涯賃金の期待値を売り、研究に打ち込む時間を買うという選択に他ならないから。

研究が大好きで、幾多の困難も情熱で乗り越えていける、と宣誓できない人。恥ずかしいことではないと思う。それは「普通」だから。でも大学院には行くべきではない。シューカツにベストをつくそう。結果は自分でコントロールできないが、行動・選択は、常に自分のべストであるように心がけられる。それでどうしても、大学院に行かないとできないことがあると悟ったなら、行けばいい。心より応援するし、尊敬する。きっとあなたには、普通の人には見えない景色が見えているのだから。

ホリエモンも言っていた。「それでもやりたいやつはやるし、そういうやつを見ると安心する。ああ、日本もまだまだ大丈夫だなって」。